

平成30(2018)年度 栃木県内の埋蔵文化財イベント一覧(9月～12月)

※予定が変更になる場合がありますので、詳細は直接事業主体機関にお問い合わせ下さい。

No.	機関名	事業名	事業内容	開催日	時間	会場	問い合わせ先	
							担当部署名	電話番号
1	公益財団法人 とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター	特集展示発掘調査速報展-栃木県埋蔵文化財センター 平成29年度の発掘調査から-	平成29年度の発掘調査成果速報展	9月30日(日)～ 11月30日(金)	10:00～16:30 (入館16:00まで)	栃木県埋蔵文化財センター 企画展示室	埋蔵文化財センター 普及資料課	0285 (43) 1971
2		史跡見学会	県内史跡・遺跡などを見学	10月14日(日)	8:00～16:20	真岡市・益子町	埋蔵文化財センター 普及資料課	0285 (43) 1971
3		発掘調査報告会	平成29年度の発掘調査成果を発掘担当者が報告	10月28日(日)	10:00～12:00	栃木県埋蔵文化財センター 研修室	埋蔵文化財センター 普及資料課	0285 (43) 1971
4		特別講演会	特集展示に関するテーマを専門の研究者が講演	10月28日(日)	13:30～15:00	栃木県埋蔵文化財センター 研修室	埋蔵文化財センター 普及資料課	0285 (43) 1971
5	宇都宮市	根谷谷台遺跡指定30周年記念企画	縄文時代前期の宇都宮の縄文人の暮らしを出土遺物で紹介	7月15日(日)～ 9月30日(日)	10:00～17:00 (入館は16:30まで)	うつのみや遺跡の広場	宇都宮市教育委員会 文化課文化財保護G	028 (632) 2768
6	宇都宮市 上三川町	上神主・茂原官街遺跡ウォーク	国指定史跡上神主・茂原官街遺跡とその主富の史跡を巡る	11月23日(金)	未定	上神主・茂原官街遺跡周辺	上三川町教育委員会生涯学習課 0285/56/9159 宇都宮市教育委員会文化課文化財係 028/632/2764	0285/56/9159 028/632/2764
7	上三川町	かみのかわ歴史ウォーク	上三川町内史跡や寺社を巡る	12月中旬	未定	未定	上三川町教育委員会生涯学習課生涯学習係	0285 (56) 9159
8	大田原市	侍塚古墳群ツアー	侍塚古墳群を歩いてめぐる見学会	10月27日(土)	13:30～	大田原市内	大田原市なす風土記の丘 湯津上資料館	0287 (98) 3322
9		市内遺跡ツアー	市内遺跡を歩いてめぐる見学会	11月10日(土)	13:30～	大田原市内	大田原市なす風土記の丘 湯津上資料館	0287 (98) 3322
10		なす風土記サロン	①湯津神社車塚御修理からみる発掘の足跡 ②歴史民俗資料館の取り組み	①12月17日(日) ②1月27日(日)	各回とも13:30～15:00	大田原市役所湯津上庁舎	大田原市なす風土記の丘 湯津上資料館	0287 (98) 3322
11	大田原市 那珂川町	第26回特別展 那須の歴史をひもとく(IV)那須のくろがね-集落の開発と鉄生産-	古代那須鐵生産と、鉄と集落のつながりをテーマにした展示会	9月15日(土)～ 11月18日(日)	①開館時間:開館時間:9:00～17:00 ②開館時間:開館時間:9:30～17:00 (入館は16:30まで)	①大田原市なす風土記の丘湯津上資料館 ②那珂川町なす風土記の丘資料館	大田原市なす風土記の丘 湯津上資料館	0287 (98) 3322
12		第26回特別展史跡見学会	群馬県方面の遺跡をバスでめぐる見学会	9月30日(日)	8:00～18:00	群馬県方面	那珂川町なす風土記の丘 資料館	0287 (96) 3366
13		第26回特別展展示解説	展示解説	9月16日(日) 10月13日(土) 11月18日(日)	各回とも13:30～	大田原市なす風土記の丘 湯津上資料館	那珂川町なす風土記の丘 資料館	0287 (96) 3366
14		第26回特別展記念シンポジウム	特別展関連の講演会とシンポジウム 講師 穴澤 義功氏(たたら研究会委員) 津野 仁 氏(埋蔵文化財センター) 鈴木 理広氏(当館館長)	10月21日(日)	9:30～15:30	那珂川町ふるさと館	那珂川町なす風土記の丘 資料館	0287 (96) 3366
15		第26回特別展史跡ウォーク	那須烏山市・那珂川町周辺の遺跡を歩く見学会	11月3日(土)	9:00～15:00	那須烏山市・那珂川町周辺	那珂川町なす風土記の丘 資料館	0287 (96) 3366
16		古代なす学入門	歴史解説員養成講座	4月～3月	適宜	那珂川町 なす風土記の丘資料館	那珂川町なす風土記の丘 資料館	0287 (96) 3366
17	下野市	前方後円墳シンポジウム(仮)	未定	11月下旬	未定	未定	下野市教育委員会 文化財課	0285 (32) 6105
18		日光街道をわら草履で歩こう!(仮)	手作りのわら草履を履いて日光街道を歩くイベント!	10月下旬予定	未定	未定	下野市教育委員会 文化課	0285 (32) 6105
19	那須烏山市	烏山城築城600年記念事業	講演会・現地見学会	10月14日(日)	13:00～15:30	烏山高枝金井キャンパス 体育館及び烏山城跡	那須烏山市教育委員会 文化振興課	0287 (88) 6224
20	矢板市	郷土資料館企画展 「埴輪と鏡～矢板市の古墳時代～」	矢板市の古墳時代を紹介する企画 (栃木県立博物館の移動博物館展)	9月23日(日)～11月4日(日)	10:00～16:00	矢板市立郷土資料館	矢板市立郷土資料館	0287 (43) 0423
21	真岡市	歴史教室	歴史に関する講演	全6回	10:00～12:00	真岡市民会館小ホール	真岡市教育委員会 文化課	0285 (83) 7731
22	壬生町	愛宕塚古墳報告会	二か年にわたる調査の成果報告	11月10日(土)予定	13:00～	城址公園ホール	壬生町教育委員会 生涯学習課文化財	0282 (82) 8544
23	那珂川町	古代文字講座	古代文字を学び、ハンコをつくる 講師:小橋雅明氏 (栃木県刻字協会副会長)	12月8日(土)	9:30～12:00	那珂川町なす風土記の丘 資料館	那珂川町なす風土記の丘 資料館	0287 (96) 3366
24		ミニ門松づくり	高さ約30cmのミニ門松をつくる	12月15日(土)	9:30～13:00	那珂川町なす風土記の丘 資料館	那珂川町なす風土記の丘 資料館	0287 (96) 3368
25	益子町	歴史めぐり②	未定	10月20日(土)	8:30～16:00	未定	益子町教育委員会 生涯学習課	0285 (72) 3101



埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは、  
ホームページ <http://www.maibun.or.jp>  
をご覧のうえ普及資料課まで  
月～金 TEL 0285-43-1971 (直通)  
日曜日 TEL 0285-44-8441 (代表)

編集後記

皆さんの近所にも遺跡があることをご存知ですか? 遺跡を通じて昔の人々の生活していた様子が分かると、歴史がより身近な存在に感じられます。平成最後の今年、歴史を勉強してみたいかたがでしょうか。 [ながとよ]

# 栃木県埋蔵文化財センターだより

CONTENTS

○埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から  
あがた駅南遺跡  
城ノ内遺跡  
国指定史跡佐貫石仏

○市町教育委員会が実施した発掘調査から  
仁良川3号墳(下野市)  
○前方後円墳の名付け親 蒲生君平  
○平成30年度 栃木県内の埋蔵文化財イベント一覧



## あなたは、だあれ? わたし土版です!

あがた駅南遺跡(足利市)から、とても可愛らしい表情がみられる土版が出土しました。土版は縄文時代の終わり頃に、お祈りや御守りとして使われたと考えられています。県内でも土版の出土例は多くありますが、表情豊かで保存状態が良好な珍しい出土品です。  
(実際の大きさは縦12cm)



とちぎ発掘イッペン図鑑

発行 平成30(2018)年9月19日  
栃木県教育委員会  
宇都宮市鳩田1-1-20  
電話 028-623-3425  
編集 (公財)とちぎ未来づくり財団  
埋蔵文化財センター  
下野市紫474  
TEL 0285-44-8441 (日曜日)(代表)  
0285-43-1971 (月～金)(資料普及課)  
FAX 0285-43-1972  
URL <http://www.maibun.or.jp>

## 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から

# あがた<sup>えき</sup>駅南遺跡（足利市）<sup>みなみ</sup>

あがた駅南遺跡は、足利市街地の南南東約 5 kmの東武伊勢崎線あがた駅の南にあります。調査前は水田として使われていた場所で、平成 28（2016）年 8 月から平成 29（2017）年度にかけ調査を行いました。

足利市域の渡良瀬川南側で、縄文時代の拠点的な集落跡や古墳時代の大規模な集落跡が発見されたのは珍しく、今後の研究成果が期待される遺跡です



赤城山

渡良瀬川

あがた駅

西地区

あがた駅南遺跡

東地区

あがた駅南遺跡遠景（南上空）

ここから発見されました。  
身長は 12 cm、体重は約 271g です。  
ほっぺたに見えるのは、実は胸なの！  
だから実は私、女の子なのよ。（笑）



土版出土状況（西地区）

## 縄文時代

あがた駅南遺跡は西地区と東地区に分かれます。西地区は主に縄文時代後期～晩期の集落跡が見つかり、収蔵箱 1200 箱を超える大量の遺物が出土しました。表紙の土版は、西地区から発見されました。



異形台付土器の出土状況（西地区）



耳飾りの出土状況（西地区）

## 古墳時代

東地区からは古墳時代前期～中期及び古代の集落跡が見つかり、約 100 軒の建物跡を調査しました。中には約 1～2 mの狭い範囲に、小型の土器や石製祭祀具が集中して出土したところもあります。



古墳時代の竪穴建物跡の調査状況（上）



I 字文岩版の出土状況（西地区）

土器・祭祀具（神まつりの道具）が集中して出土した様子（右）



埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から（3）

## 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から

### 城ノ内遺跡（上三川町）

平成 30(2018)年 5月～8月まで県道建設に伴う調整池工事に先立ち調査を行い、縄文、奈良、平安、中世、近世、各時代の遺構・遺物が発見されました。

特に注目されるのが、謎の城とされてきた「多功城」の堀と推定される溝が発見されたことです。

多功城は宇都宮氏一族の多功氏が 1248 年（鎌倉時代）に築城したとされ、戦国時代には上杉氏や北条氏の侵攻をはね返す難攻不落を誇った城でした。



多功城の堀跡と思われる大溝

この場所は、約 1 万年前の縄文早期から使用されたことが分かりました。陥し穴おとが発見されており、当時は狩りをする場所だったかもしれません。

また、奈良・平安時代の遺構としては、竪穴住居跡と井戸が見つかり、人々が暮らしたムラの跡が発見されています。

さらに、中世の土坑（長方形や円形の穴）や地下式坑（竪穴から横に掘り広げ地下室にした施設）や井戸などが出土しています。

そして、近世のお墓が発見され、人骨や銅銭、キセル、釘などが出土しています。多功地域は日光街道の脇街道の宿場として栄えており、お墓の埋葬者は多功宿の関係者かもしれません。



近世の墓跡と人骨の出土状況



他のお墓からは銅銭も出土

## 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から

### 国指定史跡佐貫石仏（塩谷町）



平場の石垣跡

佐貫石仏は、平安～鎌倉時代初期に鬼怒川沿いの崖に彫られた磨崖仏で、1926 年に国の史跡に指定されました。佐貫石仏を保存活用するための基礎となる情報を得る目的で、塩谷町から委託を受け 3 ヶ年計画で確認調査をしています。

調査 2 年目の平成 29 (2017) 年度は、石仏の東側から建物の基礎となる礎石とお堂の跡が発見されました。

また、周辺から江戸時代の寛永通宝等が出土し、明治期にお堂があったという伝承から、建立時期は江戸～明治時代と考えられます。

さらに、洞窟内のお堂は江戸時代後期に修理していることもわかり、石仏周辺にはお堂が建ち並ぶ仏教信仰の地であることが判明しました。



平場の建物跡

# 市町教育委員会が実施した発掘調査から

## 仁良川3号墳 (下野市)



腕輪

小刀

玉類

耳環

大刀(80cm)

腕輪

埋葬施設遺物出土状況  
(人影は遺物から推定)

平成 29 (2017) 年度の区画整理事業に伴い、仁良川 3 号墳 (直径 25m) を調査しました。

未盗掘のため、副葬品は埋葬時の場所にあり、埋葬者の左耳に耳環、胸の位置から勾玉等約 50 点、両手首には青銅製の腕輪 (左右各 2 本) が発見されています。

また左腕と平行した位置にある太刀に

は、刀身部付近に直径 3~4 mm の孔<sup>あな</sup>があります。このような太刀は、全国でも約 150 例、県内は 13 例が確認されていて、大刀に孔のあるタイプとして県内最古とみられます。この発見で下野市域の各首長とヤマト王権や東国各地を治めた首長が密接な関係を持っていたことが裏付けられました。



刀身の孔 (X線画像)

仁良川3号墳空撮 (北東より)  
資料・写真提供 下野市教育委員会

前方後圓為壇三成且環以溝。崇延曆

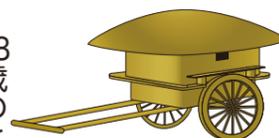
▲『山陵志』文化五(一八〇八)年発行

今年蒲生君平が誕生して250年です。様々な記念事業が行われていますが、こういう人物だったのでどうか。

蒲生君平は、江戸時代に宇都宮で「前方後円墳」の言葉を考えてた考証史学者です。

江戸時代の文化5年(1768)、宇都宮新石町(現在の小幡二丁目。宇都宮地方裁判所の東)の油問屋福田屋の六男に、福田伊三郎(のちの蒲生君平)は生まれました。

### 前方後円墳の名付け親 蒲生君平



28歳のとき、初めて君平と名乗り、翌年、関西で「山陵」と呼ばれていた古墳の調査を開始します。「九志」のひとつ『山陵志』を作るためです。多くの文献を読んだ知識をもとに、地形や聞き取り調査を行い、それぞれの天皇の墓(陵)は、どの古墳であるかを考えました。そして、かぎ穴のような型式の古墳があることに気づき、死者を運ぶ古代中国の靈柩

幼いころ、祖母から先祖は戦国武将の蒲生氏郷であると聞き、学問で身を立てることを決意します。

15歳になると、鹿沼の儒学者鈴木石橋に学びます。石橋は江戸幕府の昌平黌で教えた後、郷里に帰り私塾を開いていました。17歳になると蒲生彦平と名乗り、塾の筆頭となります。石橋は、彦平の知見を広めるため、黒羽藩家老の鈴木正長を紹介し、当時、黒羽

車の形が原形と推測し「前方後円」と名付けました。また、時代により古墳の型式に変化があることをまとめ、今の考古学に近い学問を展開します。『山陵志』は7年をかけて完成となりました。その後、『職官志』を作り、「刑志」を書き上げた直後、赤痢にかかり、46年間の熱血人生に幕を閉じたのでした。



▲蒲生君平秀寛大人之影(個人蔵)  
死後十八年目に描かれた肖像画

は那珂川水運を利用し、水戸との往来が盛んで、彦平は水戸藩の彰考館と交流します。彰考館では、水戸黄門こと徳川光圀から始まる『大日本史』の編さんが行われています。彦平は、日本の歴史を明らかにすることに正しい世の中をつくらんと考え、『大日本史』に計画されていない資料編を作ること生涯の目標に決めました。資料編は9編に分け、「九志(志は誌と同じ)」としました。